

「シンジー」及び「アルメリア」の施肥管理技術の確立

農業試験場 研究員 橋本 拓真

【要約】

新規花き品目「シンジー」と「アルメリア」の省力据置栽培における施肥管理技術を検討したところ、1年目は有機配合による基肥と、液肥による追肥で窒素施用量として「シンジー」は25kg/10a程度、「アルメリア」は20kg/10a程度、2年目以降は全量液肥による施肥が有効である。

【背景・ねらい】

本県で栽培が盛んなスターチス・シヌアータに代わる新規花き品目を、暖地園芸センターで選抜を行ったところ、無加温ハウスで栽培可能なハイブリッドリモニウム「シンジー」とイソマツ科の「アルメリア」が有望という結果を得た（図1）。この2品目は宿根性のため越夏可能であったことから、株を更新せずに複数年栽培する省力据置栽培が可能と考えられる。そのため、農業試験場では省力据置栽培における「シンジー」と「アルメリア」の最適な施肥方法の確立を目指した。



図1 新規花き品目の栽培の様子

左から「シンジー」「ディープラベンダー」、
「シンジー」「シルバー」、
「アルメリア」「ローズジャイアント」

【成果の内容・特徴】

1) 「シンジー」の施肥管理技術

1年目は9月の定植時に基肥として有機配合肥料を「ディープラベンダー」では窒素量で10kg/10a、「シルバー」では7kg/10aを施用し、定植2か月後から総窒素量で15kg/10a程度となるように2週に1回液肥を施用する。2年目以降は、1kgN/10a相当を液肥で2週に1回施用する（表1）。また、「ディープラベンダー」においては、採花量が増える3月以降の追肥割合を増やす後半重点型の追肥を行うことで、収量増加の傾向がみられた。

2) 「アルメリア」の施肥管理技術

1年目は9月の定植時に基肥として有機配合肥料を窒素量で7kg/10aを施用し、定植2か月後から採花終了まで、総窒素量で12kg/10aとなるように2週に1回液肥を施用する。2年目以降は、採花終了まで1kgN/10a相当量を液肥で2週に1回施用する（表1）。

表1 新規花き品目における省力据置栽培時の施肥例

品種	1年目 ²		2年目以降
	基肥 (有機配合)	追肥 (液肥)	
シンジー「ディープラベンダー」	10kgN/10a	15kgN/10a	液肥で2週に1回1kgN/10a施用し、年間24kgN/10a
シンジー「シルバー」	7kgN/10a	15kgN/10a	液肥で2週に1回1kgN/10a施用し、年間24kgN/10a
アルメリア「ローズジャイアント」	7kgN/10a	12kgN/10a	液肥で2週に1回1kgN/10a施用し、年間18kgN/10a (9~5月のみ施用)